

菖桜物語

—源範頼—



歌川広重
『五十三次名所図会 四十五
石薬師 義経さくら範頼の祠』



第1章 石薬師の蒲ザクラ

寿永3年（1184）
う途中でのこと

源範頼が義経とともに平家追討のため、西へ向か

一之谷の戦い
壇ノ浦の戦い



石薬師寺に詣でて武運を祈願し、
戦運を占うために、鞭にしていた桜
の枝を地面に逆さに指し



我が願い叶い
なば、汝地に
生きよ

天下分け目の戦に見事勝利を治め、この桜のムチも芽
を出し枝を張り、春には美しい花を咲かせたという。

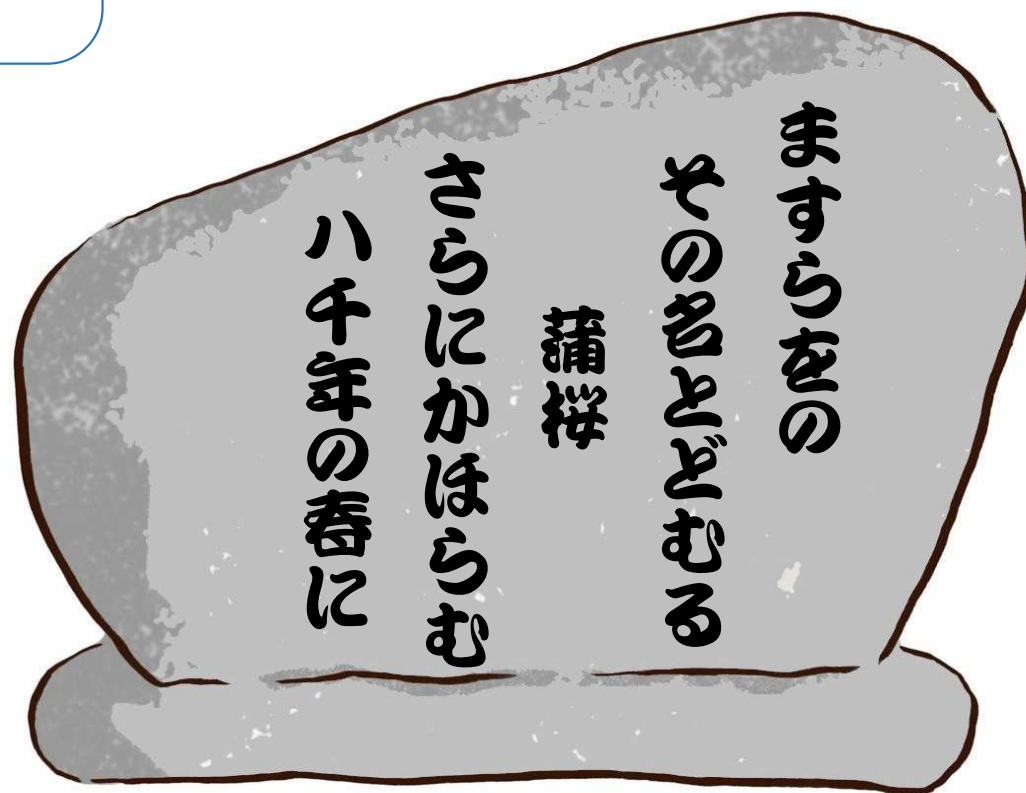
蒲冠者の云われから蒲桜と
呼ばれるようになったんだ。

ムチを逆さに差した事から
『逆桜 (さかさくら)』
ともいわれているよ。



昭和14年(1939)8月10日三重県の天然
記念物に指定された。

この木の下には、佐佐木信綱翁が
この桜を詠んだ歌碑が建てられて
います



ますらをの

やのさびなる

蒲桜

さらにかほらむ

八千年の春に

第2章 源範頼

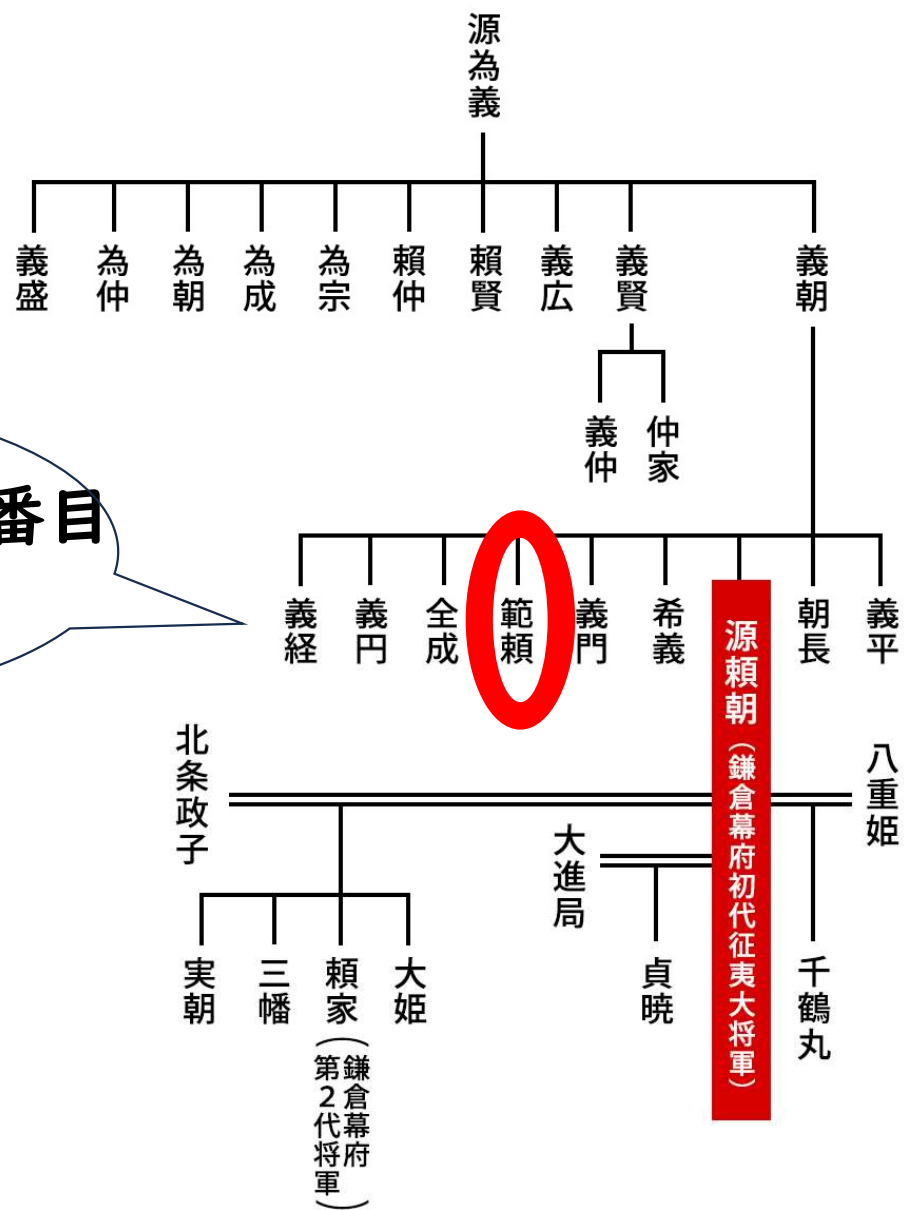
源範頼は遠江国の蒲御厨（かばのみくりや：現在の静岡県浜松市）で生まれ育ったことから、「蒲冠者」（かばのかじゃ）や「蒲殿」（かばどの）という異称でも呼ばれていました。

鈴鹿では、「がま」と呼んでいる。蒲川（がまがわ）が近くにあるためと思われる

蒲桜 がまざくら

ふむふむ





頼頼は9人兄弟の6番目
一番下の弟が義経

県指定文化財・天然記念物

石薬師の蒲ザクラ

昭和十四年八月十日指定

この桜は、ヤマザクラの一変種として植物学上からも珍しい。

赤茶芽、花は一重の五弁、直径5cm、白色から淡紅色で開花時は見事である。

伝説によれば、じゆえい寿永（一一八二〜八四）の頃、がまのかじやみなむとのりより蒲冠者源範頼が平家追討のため、西へ向かう

途中、石薬師寺に戦勝を祈り、むち鞭にしていた桜の枝を地面に逆さに挿したのが、芽を出してこの桜になったと言われている。そのため、俗に「逆桜」ともいわれている。

鈴鹿市文化スポーツ部文化財課